
私の恋

つみき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私の恋

【Nコード】

N6364K

【作者名】

つみき

【あらすじ】

高校2年生つみき。もてるのに彼氏がいたことがない。そんな彼女がこいをした・・・。

初恋

『また振ったの?!』

『だから、アタシより運動できて、頭がよくて・・・とりあえず完璧な人がいいの。』

またこの説明。

でもこんなのは、嘘。

親友にも嘘をつくのは、気が引けるが・・・。

『大野君なんて、つみきとお似合いだと思ったのにい。』

『大野君は、声が無理。』

これも嘘。

声なんてどおでもいい。

『あつそ。』

私、野口みつき。

彼氏がいたことは、ない。

別にもてないわけでは、ないのだ。私だって恋をしたいし、彼氏がほしい時だってある。

でも、好きではない人と付き合うのは違うと思うから、今までこくられた人はみんな振ってきた。

彼氏がいないと、周りの人が

『あの人が好きなんですよ!!』

とかいちいちうるさい。

それがめんどくさくて、

“完璧な人”

がいいなんて言うようになったのだ。

そうすれば、なんだかんだ理由をつけて

『好きな人なんていない』

と言うことにできたから、。

そんなアタシが恋をしたのは、雪が舞う12月の寒い日だった。

私はバスケット部。

彼は、サッカー部。

体育館は改装工事とか何とかで一週間使えない。

雪のせいで校庭も使えなかったので私たちは、ホールで筋トレだ。

まあ真面目にやっているのは、部長だけが、

この狭いホールを雪で校庭が使えないので、外部の多くでビッチリ・

『あの人かっこよくない?』

親友の菜穂は、かなり面食いだ、ゝゝ。

『・・・』

『ねえ!! つみき聞いてる?』

『・・・ごめん! どの人?』

『あの一番奥の人。』

その瞬間、私は初恋をした。

さかき
れん
榊 蓮

菜穂が言っている

“カッコいい人”

の隣にいる普通よりはカッコいい程度の人。

でも、私にはすぐカッコよく見えたんだ。

私は、彼を知っている。

中学が同じだったから。

榊 蓮

運動は学年でも出来るほう。

勉強は私と同じくらい。

中学生のときは塾が同じで勉強が同じくらいできたから、ライバルとしてテストがあるたびに競い合っていた。

つまり、まったく恋愛対象ではなっかたのだ。

なのにどうして約2年ぶりに見た彼に恋をしたのだろう。

『アタシ、好きな人できた。』

『えええ!!!!』

菜穂がビクリするのも無理ないよね・・・。

だって今まで散々あの人もこの人もダメとか言ってきたもんね。

菜穂 s i d

つみきが“初恋”をした。たぶん“カッコいい”人の隣の人だと思う。

私思うにつみきは、恋というものを知らないんだと思う。

だから菜穂がつみきの恋に協力してあげなきゃ☆

私、まきた牧田 なほ菜穂

つみきの親友。

私は彼女います！！

やまがた山片 たくと拓斗

拓斗は、つみきと同じ中学だったんだって。

私から見つみきは、頭は良いし、運動も出来るしかわいいし、もてる。

簡単に言うとも出来るのだ。

恋愛を除いては・・・。

恋する乙女

私は、恋をした日から菜穂と一緒に蓮の教室に行った。
ただ、みているだけ・・・。

拓斗と蓮は同じクラスだったから菜穂を連れて行くことで行きやすかった。

菜穂はいつも拓斗と話していたけど、私はいつも蓮を目で追っていた。

そんな毎日で高校2年生の2学期がおつわた。

冬休みのある日、急に菜穂と拓斗とTDSに行くことになった・・・。

拓斗とは、中学が同じだったくらいで特に仲が良いわけではないから、デートに付いて行くのはおかしいとおもったが・・・。

拓斗sid

俺、拓斗は今、彼女の菜穂に
TDSに蓮を連れて来い、と言われた。

菜穂に聞いたところ、つみきは、
拓斗のことが好きらしい。

俺はつみきとは、そこまで仲良くないが、
蓮とは、親友だと思う・・・。

蓮は、中学生のときからもてた。
でも、付き合ったことは、なかった。
それは、蓮には好きな人がいたから。
つみきのことだ。

つみきは蓮を友達として仲良くしているようだった。

でも蓮は2年たったいまでもつみきのが好きらしい。
最近、菜穂とつみきが教室に来るの喜んでたもんな・・・。

この高校に進学したのも
“拓斗と同じところがいい。”
とか言ってたけど、たぶんつみきだろう。

蓮はへたれだから、きつとつみきには告れないだろう・・・。
そんな蓮には俺が協力してやるしかねえな！！

蓮sid

拓斗にTDSに誘われた。
つみきも来るらしい。

俺は、中学生のときから
つみきのことが好きだ。

でもつみきは、俺を友達としてしか見ていなかったから、
告白はしなかった。

俺はつみきのなんでも頑張るところが好きだ。
だから俺も

つみきに似合う男になりたくてなんでも頑張った。
その結果、つみきとライバルのような関係になってしまったわけだ。

高校に入ると、接点がなくなってしまい、
話すこともなくなった。

そんな時拓斗にTDSに誘われたわけだ。

こんなチャンスはもうないかもしれない。
だから、俺はTDSでつみきに思いを伝える。

チャンス??

TDS当日。

私は、動きやすいようにと
ジーパンに上は、モコモコのパーカー??といった服装にした。

『おはよう。菜穂、拓斗。』

『おはよう。』

待ち合わせ場所にはすでに
菜穂と拓斗が来ていた。

『じゃあいこっか!!』

『……』

『……』

数分後。

『拓斗』

『おせーよ。』

蓮??!

なんでいるんだ??

3人じゃなっかたのお?!

『蓮君も呼んどいた☆』

菜穂・・・だったのね。

って私

もっとお洒落してくれば良かった。

『じゃあ行くか!!』

気付けば蓮が仕切ってるし。

私の恋

私たちは、一日遊びまわった。

そのおかげで蓮とも昔みたいに話せるようになった。

ただ、変わったのは

私の蓮に対する思いだけ……。

だから、昔と変わらない私に対する蓮の態度が時々悲しかったりする。

これがきつと恋なんだ。

そして楽しい一日は

あっという間に終わろうとしていた。

帰り際、菜穂が

“拓斗と2ショットが撮りたい”
って言うから撮ってあげた。

そしたらながれで私も蓮と2ショットを撮ることに……。

2人で並んだ瞬間、右手が蓮の左手に触れた。

“どきっ”

心臓がうるさい。

『ハイタッチズ』

“ぶにゅっ”???

右頬に生暖かい感触が。

蓮にキス・・・された?!

ビックリして

蓮を振り返った。

『つみき、俺、ずっとつみきが好きだった。
付き合ってほしい。』

私の口は自然に動いていた。

『はい。』

蓮は完璧な人なんかじゃない。
でも私は、そんな蓮に惚れました。
これが私の恋だったから・・・。

私の恋（後書き）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6364k/>

私の恋

2011年1月27日07時45分発行